

「先輩の実績は後輩へのプレゼント！
後輩の実績は先輩のステイタス！」
という思いで、プレゼントします。

昨年度入学した先輩から君へのメッセージ集

『この一年間で私は…』

大阪学園大阪高等学校 第七十四期生（二〇一九年度入学）

「勉強から学習への変化」

A組 小谷 美空（高槻市立城南中学校出身）

中学時代はあまり勉強に興味がありませんでした。高校に入学することになり、それが劇的に変化するわけでもなく、平凡な日々を過ごしていました。五月になり、英語の授業を受けていると、先生が単語の語源について話をされました。最初は特に気に留めることなく聞いていましたが、「なるほど」という瞬間がありました。そして、その理解が楽しさに変化していききました。楽しさを感じる、次は、興味に変化しました。その後は、理解と楽しさのループとなり、勉強から学習へと変化した一年でした。

このような体験ができたことは、「成長」という文字以外の何ものでもありません。ただ暗記するだけでなく、少し考えて頭の引き出しに入れることで、「楽しい」と実感でき、学習の基本である「なるほど」を体感できることで、本当の意味で、勉強から学習への変化ができたのです。

中学時代に、体感することができなかった学習観。今後、その学習を自分の中で、さらに進化させていこうと決意しています。

「様々な変化」

A組 田畑 慧太（豊中市立第十七中学校出身）

私は、高校で一年間過ごして変化することが二つあります。

一つ目は、あらゆる物事に対する意識の変化です。例えば、勉強については、「分かるからいい」ではなく「こうだったらどうなんだろう」という風に、新たな疑問を持ち、探究心を忘れないようになりました。また、部活では、今まで何も考えなかった動きの中でも「この動きはこうつながるのか」

や「この方法が最善なのか」というように、一つのことに意味を求めるようになりました。

二つ目は、目標の見方の変化です。これまでは、目標だけを見て頑張っていました。しかし、目標までの道のりを客観的に捉え、具体的にどうすればよいのかを考えて行動できるようになりました。

私は、これまでの高校生活で大きく二つの点で変化することができました。そして、今後もさらに大きく変化していきたいと考えています。

「様々な変化」

A組 中嶋 純花（大阪市立新東淀中学校出身）

大阪高校に入学してから一年が経過し、多種多様なことが変化しました。その中でも大きく変化した二つを紹介いたします。

一つ目は、委員会活動などへの積極性です。この一年間で、文化祭実行委員・オーブンスクール企画運営委員会・ポスター作製などの様々な活動に参加してきました。ここでは、普段、体験できないことがたくさんありました。それらを知ることがとても貴重な時間だと感じることができました。

二つ目は、学習面です。一番初めに学んだことは、「勉強から学習への変化」です。この言葉は、これまで勉強をしていた私の行動が大きく変化しました。「面白い」勉強を「楽しくて、納得のできる」学習へと変えることで、英語検定や漢字検定の受検や継続的な家庭学習へと幅を広げることができたのです。

この一年間で様々な変化を実感することができました。その実感が自分の今後の人生の糧となり、昨日の自分よりも、さらに成長できる今日の自分を楽しみにしながら、充実した日々を過ごしていきたいと思っています。

「忙しい計画性」

B組 今北海道（箕面市立第一中学校出身）

私がこの1年間で変わったことは、忙しくなったことです。理由はサッカー部と科学探究部に入ったからです。サッカーは練習量が多く、科学探究部も活発です。1日に両方の部活動をする日もあり、とても忙しいです。

でも、苦ではありません。なぜなら、この2つの部活動は、自分の意志で入部したからです。今までの私は、物事はすべて「気合」で乗り越えられろと思っていました。しかし、科学探究部に入り、何かを実行する時は、気合だけではなく、計画性が必要だということがわかりました。サッカーでも、頭を使い、なぜ点を決められたのかを考え、試合中にその問題を修正できる様に意識しました。その結果、人との関わり方も変わりました。この変化を大切にしていきたいです。

「知れば広がる」

B組 井上友人（大阪市立住之江中学校出身）

僕がこの1年間で変わったことは、「知る」ということです。中学生の時に、「1年は知る、2年は磨く、3年は完成させる」という言葉を聞いたので、高校で実践してみようと思いました。

高校生になると、新しい環境の中で中学の時より、深い知識、体験を得る機会がありました。例えば、文系と理系の違い、大学の学問と高校の学びの違い、選択による自分の未来の在り方など、知れば知るほど、自分自身の世界が広がっていくのを実感しました。1年間で得た知識や体験を通じて、2年ではそれらを磨いていきたいです。

「主体性」

B組 杉山 陽夏（豊中市立第七中学校出身）

私大阪高校に入ってから変化したことは多くあります。その中でも、特に変わった部分について紹介します。私は中学校の時、バドミントン部に所属していました。入った理由は、小学校の頃からの友達みんな、その部活動に入ったからです。中学2年の後期からは生徒会執行部に入りました。理由は、友達が入っていたからです。

このように、中学の頃の私は友達が、「誰か」を理由に物事を決めていました。そんな私が、高校生になって明確に変化しました。つまり、行動の理由を「誰か」ではなく、「自分自身」に置き換えてみたのです。そうすることで、やらないうことの言い訳を「誰か」に押し付けることはなくなりました。また、「自分で決めて自由に動ける」という楽しみを見つけたことができました。

「準備する力」

C組 菊地将（大阪市立春日出中学校出身）

この1年で私は色々成長しました。まず、疑問を持つ力です。これはやる気を出したり、集中力、好奇心を高めたりするために大切な力だと思っています。大阪高校に入学してたくさん講演や取り組みによってこの力が高められました。次に、人前で話す力です。中学生の頃は委員長をしていたので多少前で話す機会があったのですが、緊張したりして上手く話せないことがほとんどでした。しかし、今は多少の緊張はあるものの、まとまった話し方をできるようにになりました。その次に準備力です。何事も準備が大切だということを高校に入って気付かされました。先程の人前で話すことだって、準備ができるようになったからこそ、落ち着いてまとまった話をできるようにになりました。休み時間でも、次の授業の準備をすることでモチベーションも上がるし、心の準備もできるから、授業で理解できるレベルが上がりました。このように私はこの一年で成長しています。

「磨励自彊」

C組 野中希望（大阪市立大淀中学校出身）

「磨励自彊」この一年間、まさにこの言葉のように様々なことに積極的に取り組み、大きく成長できた一年になりました。ひとつは、とても苦手だった英語を好きになり、好きな国語をもっと伸ばすことができ、しっかりと自分の意思を持ち勉強に取り組むことができるようになったことです。絶対に予習をしていなかった英語も、ネパールの人との交流や、ネイティブの人との交流を重ねていくうちに、自然に毎日自分から英検の勉強、授業の予習をできるようにになりました。また、夢に近づくために今年から始めた手話や点字

の独学は、まだまだ未熟な部分もありますが誰かの役に立つことの嬉しさを覚えるきっかけにもなり、この一年ではるかに人との交流が増えました。病気や障害への理解を深めている人はまだまだ少ないです。しかし、理解できる立場にいる私がこれからもっと広めていけるように、今年一年もどんどん新しい世界に踏み込んで挑戦していけるよう頑張りたいです。

「夢と現状」

C組 藤岡涼大（大阪市立瑞光中学校出身）

今、僕は文理特進コースに所属しています。しかし、英語が壊滅的に苦手ななかなか克服できていませんが、いま少しずつ理解しつつあると思います。英語はすぐに結果が出る教科ではないことは理解していますし、まだ我慢の時期だと理解しています。いま自分に出来ることを精一杯していると思っていますが、コツコツ頑張りを続けていくことが自分への成長へと繋がると考えています。中学時代からテスト前に勉強もあまりせず、部活中心の生活でもそこそこ点数や結果が出ていたからこそ、多少の油断があったと思います。いまは自分としっかり向きあって頑張るしかないと思っています。

今後の進路は社会が得意で好きな教科なので、それを活かして経済学部や社会学部を考えています。もしくは将来起業したいので、経営学部などのある大学に進学したいです。二年生では、総合コースに移って、高大連携の選択授業を頑張っていきたいと思っています。

「いい意味でバカになった」

D組 吉田 來維（箕面市立第四中学校出身）

この1年を通して、私はいい意味で「バカ」になりました。一例を挙げると、中学校の頃に比べて部活の練習に「バカ」になりました。私は中学校の時、よく練習をサボったりしました。しかし、高校に入学してラグビー部に入ると、自然とさぼらなくなって、練習にも積極的になりました。

そうなれたことには理由があります。大きな理由として、自分にとって遊び半分だった部活が、スポーツとしての部活に変わったことです。そしてもう一つが、ラグビーは体と体を交えるスポーツなので部員との仲がより一層深まったことです。だから高校に入って僕は「部活バカ」になりました。

最後に、部活に熱心になれば自然と勉強もやる気になるので、勉強に疲れたら体を動かすこともいいかもしれません。

「自分で考えて動く」

D組 坂ノ下 蒼瑛（茨木市立平田中学校出身）

この一年で私は、「自分で考えて動く」ということの大切さを知った。これまで義務教育だったこともあり、自分で考えなくても、なんとなく前に進めたけれど、高校生になって大抵のことは自分で責任を取らないといけないとなった。先生がやってくれることもなければ、勝手に進級できることもない。そこで私は自分で動くことの大切さを感じた。それから私は、自分で考えて動くことが増えた。例えば、家に帰ってから復習をしたり、テスト勉強の計画をちゃんと立てたりした。その中でも一番大きかったのは理系か文系かを選択するときだった。まだ高校生になったばかりなのに、もうそんなことを選ばないといけないのかという思いと、選択を間違えたらどうしよう

という不安があった。でも私はなんの知識もなかったの、まず文系、理系についての情報を集めた。けれど、先生はその様子を見守ってくれているだけだったので、自分から情報を集めるしかない。それは思っていたよりも大変で、先輩に聞いたり、ネットで調べてみたりいろんなことをして情報を集めた。

この文理選択があったことで、私は改めて「自分で考えて動く」この大切さを感じた。だから、これからはもっと考えて、その考えたことを行動に移せるようになりたい。

「この一年でわたしは」

D組 吉村 美佑（大阪市立旭東中学校出身）

中学校生活は自分で可能性をつぶして、意見も言わず人に合わせたりしていました。高校に入学してすぐ、私たちはオリ合宿という2泊3日の林間学校みたいなものに行きます。中学校生活では何もせずにおこなった私が、高校で色々なことに挑戦するきっかけになった出来事は、まさにこのオリ合宿だったと、今になって思います。

合宿の最終日、私は担任の先生から頼まれて、なぜか約500人の前で話すことになりました。これを機に私は、ホームステイ受け入れ、委員会活動、部活動など人の前で話したり、議論を交わしたりすることが増えました。その中で、自分の夢も決まりました。進路選択は、自分の夢のことを考えて決めたので後悔はないです。自分の限界を決めて「無理だ」と諦めることを、私はこの1年やめてきました。その結果が今に至ると思います。

色々なことに挑戦し、たくさんの人と関わって自分の知らない世界を広げることが出来た1年だったと思います。

「落ちこぼれからの成長」

E組 河野 蒼平（大阪市立新北野中学校出身）

高校に入って一番変化したと思う点は、何事にも自信を持って挑めるようになったということです。中学校の時は、部活動でもテストでも真ん中より少しくらいの中途半端な成績しかとれなくて、あまり楽しい日々を送れていなかったと思います。チャレンジした公立高校にも落ちてしまいました。そんな中、私は大阪高校にきました。今度は後悔したくないと思って努力し、最初の中間テストでクラス3位になりました。そこから、学年上位をキープできるようになりました。部活動は和太鼓部に入り、和太鼓の楽しさを実感し、今ではもっとうまくなりたいという意欲が沸くようになりました。

私はこの大阪高校での約1年間で、自信を持つことは自分自身の向上に繋がるということがわかりました。皆さんも、大阪高校でいろんなことに挑戦してください。

「無限の可能性」

E組 宮川 広大（宝塚市立光力丘中学校出身）

私は大阪高校に入学してからの1年間で、将来自分がなりたい理想像から「そのために今何をすべきか」または「今、何を選択するのが将来の自分に必要か」を逆算して考えるようになりました。

過去の自分は、ほんやりとした夢やなんとなくになりたい職業はあったものの、真剣に考えることがありませんでした。将来なりたい職業に就くために

はどんな大学に入学すべきか、どんな学部・学科に行くべきか、全く想像もつきませんでした。

しかし、大阪高校に入学して、授業の中で、進路のことを調べたりプレゼンしたりしているうちに、「僕の行きたい学部は文学部なんだ！」と自信を持って言えるようになったり、進路意識も高められるようになりました。大阪高校は、私にとって色々な可能性を見せてくれる高校です。

「人見知りだった私が…」

E組 小川 達也（大阪市立東淀中学校出身）

中学生のとき、私は人見知りで、行事活動にも全く自分から行動しませんでした。特にしたい事もありません。中学校生活を送っていました。その時の私は、それでも大丈夫だとなんとなく感じていました。

しかし、オーブンスクールの企画運営委員会に出会ってからは、私の気持ちと行動は大きく変わっていきました。友達に勧められて参加したものでしたが、続けていくうちに活動が楽しくなってきました。このおかげで、行事活動に参加することは楽しいことなんだと理解していきました。オーブンスクールでの僕の仕事は「校内見学ツアー」でした。なので、多くの人と話す必要があります。僕はあまり人と話すことが得意ではありませんでしたが、続けていくうちに人と話すのが楽しくなっていきました。そして、行事などに参加する勇氣を得ることができました。

今の自分は人見知りがなくなり、行事に対する思いが昔より変わりました。これからも色々なことに挑戦していこうと思います。

「今から、未来へ」

F組 池永 遥斗（大阪市立此花中学校出身）

この一年を振り返って見た時、私自身に様々な変化が出てきました。例えば、「勉強」です。勉強の面では、自分が苦手だった英語を頑張ろうと思ったり、分からない所があれば自分からすすんで先生に聞きにいったりするようになりました。なぜ、主体的に行動できるようになったかということ、自分に夢が出来たからです。その夢は、今の自分からは果てしなく遠くて、本当にこれが実現すれば、自分の中では大きく成長できると思っています。その夢を叶える第一歩として、私は自主的に勉強をしようと思えました。そして、三年間努力し、志望する大学に行き、必ず夢を実現させて見せます。また、勉強だけではなく、人間性を磨いたり、深く考える力を身につけたりして、一歩・一歩と、確実に踏み進んで行きたいと思っています。

「高校生活と責任」

F組 黒木 美伶（吹田市立第六中学校出身）

私が大阪高校に入学して良かったと思うことは、人間関係をはじめ、色々なことに対して、「責任」というものがどれほど大切なものなのかということが分かったことです。

今までは中学生（義務教育）というものに守られていたけれど、高校に入ってからには全てにおいて責任が伴います。環境が変わることで、今まで通じてきたことが通じなくなることもあります。例えば、委員会やクラブ活動ではコミュニケーション能力や積極性が中学生以上に必要なことに気付かされました。大阪高校では、他の学校よりも生徒数が多く、先生や先輩もたくさ

んいて、色々な場面で関わる機会があります。生徒が主体となって動く行事が多いので、自分で考え、それを分かりやすく相手に伝えないといけないため、「コミュニケーション能力は必須だと感じています」。

ほかに、私はクラブ活動ではマネージャーをしているので、責任感と積極性が必要です。先輩や同級生の物を扱ったり、預かったりするので丁寧にかつ慎重に扱わないといけません。選手とお話する機会も増えるので、「コミュニケーションが大事だと思いました」。

これからも、たくさんの人と関わって良い高校生活を送れるように頑張りたいです。

「一日五分だけでも」

F組 成瀬 舞（大阪市立旭陽中学校出身）

私はこの一年間、部活と勉強の両立をがんばりました。部活はバドミントン部で、高校からはじめました。入部当初は、部活と勉強を両立することができるのかとても不安でした。そんなときに、顧問の先生が勉強面について相談に乗ってくれました。「一日五分だけでもいいから復習してみ」というお言葉をもらい、電車の中ではほぼ毎日、ノートや教科書を見るようになり、以前までの私は暇さえあればスマホを触っていましたが、今は違います。毎日たったの五分だけでも勉強するということを自分に身につけることができました。部活で忙しいことも多くありますが、自分のやる気さえあれば両立できるんだと実感し、勉強と部活の両方をがんばっています。現在私は一年の総合コースですが、もっと幅広く勉強をがんばりたいと思います。二年生では文理コースに移ります。まだまだ努力は必要なのでがんばります。

「自分が見える」

G組 江籙 莉子（大阪市立八阪中学校出身）

私は高校入学時に、友達ができるかどうか、勉強についていけるかどうかなどのたくさんの不安を持っていました。でも、最初のオリエンテーション合宿でたくさんの友達ができ、初めての高校生活がとても楽しみになりました。高校は中学とは全然違って、勉強面や生活面でも難しいことが増え、自分の進路に行くために決めなければいけないことがたくさんあります。今までの私は今まで周りに流されてしまうことが多く、一人で何か決めることが少なかったけれど、高校に入って自分を見直すことで、一人で決める事が多くなり、やりたい事は友達に流されずに決められることが多くなりました。だから、私はこの一年間で文系理系の選択も将来の夢にあう方を自分で決める事ができました。また、自分の将来の夢は中学の時は見つけられなかったけれど、高校に入って初めてのオープンキャンパスなどに行き、大学に行っている自分を想像することができ、そのときに高校に入ったときと違う自分が見えました。これからたくさん、自分自身を成長させて行きたいと思っています。

「この一年間を振り返って」

G組 佐々木 秀太（豊中市立第十中学校出身）

この一年間を振り返って思ったことは、この一年間あつというまだったということだと思います。中学3年生のとき僕は公立受験に失敗してしまい、正直、最初は大阪高校に行きたくないと思っていました。友達は出来るのかなどの高校生活に対して不安があったのを覚えています。大阪高校に入学したころは

あまり友達も出来なかったのですが、今では友達もたくさんでき、クラブ活動も楽しく取り組んでいます。楽しいことが多かった一年間だと感じました。勉強はだんだん難しくなってきた、テストでは良い点数があまり取れなくなってきたのでこれから頑張りたいと思います。二年生になったら勉強では成績を悪くしないように、部活では後輩の見本となるように頑張っていきたいです。

「この一年を振り返って」

G組 高木 由季亜（大阪市立第三中学校出身）

中学校とは違う新しい高校生活で、はじめは不安しかなく、すべてには慣れませんでした。しかし、友達もたくさんできて徐々にその環境にも慣れてきました。入学して一年間で、中学ではなかったこともたくさん学べました。私はたくさんの部活のなかで和太鼓部に入り、部活でもイベントを通して色々なことが学べました。仲間もたくさんできて、毎日充実しています。勉強では科目が増えて大変だけれど、初めてクラスで一位になって、そこで、もっと勉強を頑張ろうと思えました。部活と勉強の両立は簡単じゃないけれど「クラスで一位をとる」や「学年で十位以内に入る」など、しっかりと目標を立てればできるのだと自分に自信がきました。分からないところがあれば先生が教えてくれるので、もっと勉強に対する意欲がです。この一年間色々あったけれど、この高校にしてよかったです。あと、G組でよかったです。

「私の1年のわ」

H組 古味 ひかる (大阪市立井高野中学校出身)

中学生だった頃の私は、部活や勉強をあまり真面目にしておらず、遊んでふざけあったりして、今とは違う性格をしていました。私は併願だったのですが、公立高校に落ちてしまい、悔しい気持ちで大阪高校に入学したことから「変わろう」と決めました。中学生の頃からしていた和太鼓を高校でも続け、勉強も頑張りました。どちらかといえば、部活を頑張り、入部した時から「一年生の中で一番上手になってどの大会にも出る」という目標を持ちました。達成するためにひたすら努力し続けた結果、二つの大会にメンバーとして選ばれ、かつセンターをとることもできました。私はその時少しかだけ達成感を得て涙があふれました。

私は和太鼓部に入部したことによって考え方や性格が少し変わりました。感情をたくさん表に出すこともできて、仲間と出会ったことによって、よく笑い、よく泣き、素直になることができました。私にとってこの一年は大きく変化し、成長した一年になりました。

「高校1年生」

H組 三谷 虹太 (大阪市立瑞光中学校出身)

この一年間でいろいろなことがありました。

自分の中で一番印象に残っていることは、中学校では、ほぼ200点台だった自分が、高校では、ほぼ全教科平均点以上取れていたことです。自分の中では大きな成長だと思いました。

ただ、苦手な教科はそれなりに低い点数を取ってしまっているんで、そこ

は二年生で頑張っていると思うます。

そして、一番目に印象的なのは、部活動のことです。

自分はサッカー部に入部して、できるだけ早く、Aチームに上がって二年生とプレーをしたいと思っていました。すると、初めての入れ替え戦で運よくAチームに上がることができました。それからもAチームのままいられ、今は部活動と勉強の両立をできていると思っています。

あと残りの二年間は、この一年間で学んだことを活かして、進んでいけたらいいなと思います。

「一年間を通して」

H組 木岡 優芽 (泉大津市立東陽中学校出身)

とても収穫の多い成長した一年間だったなと振り返ってみて思いました。まず大阪高校に入学したいと思ったのは大阪高校で陸上競技をしたいと思ったからです。私は中学のときは長距離をしていて、高校では絶対に短距離をしたいと思い、兄も大阪高校だったので大阪高校に決めました。今でも家も遠いし「長距離やっていたのになんで短距離にしたん」と聞かれることがあります。スタブロの使い方もよくわからなかったですが、大高に入ったことを後悔することなんてなく、大高に入って短距離をして本当に良かったと思います。何でも優しく丁寧に教えてくださる先輩や、良い意味で何でも言い合える同期のおかげです。最初は何もかも分からなかったですが、今ではとても充実した陸上生活を送れています。この一年は良い結果を残すことができなかつたのですが、あと二年、自分らしく頑張っていきたいと思っています。

「感謝の気持ち」

一組 中田アドリアン 勝(西宮市立平木中学校出身)

僕は、陸上部の投擲パートに入ってから、努力をすることの意味や、感謝の気持ちを知りました。

中学の時の僕は、部活でも全然努力をせず、妥協してばかりいました。しかし、高校で先輩の活躍を見て、その姿にとても憧れました。そして、自分自身も先輩のようになりたいと思いました。先輩はとても努力家で、毎日自主練習をしています。更に、普段の練習でも、人一倍ストイックにしている印象でした。それを見て衝撃を受けた僕も、その行動を実践するようになりました。毎日朝練へ行くこと、普段から常に自分に厳しくすること、食事トレーニングをすることなどです。しかし、その行動を継続できるのは、自分だけの力ではありません。毎日、朝早く起きておにぎりを作ってくれているお母さん、熱心に指導してくださる多くの先生方、基礎からたくさん事を教えてくださった先輩方がいなければ、今の僕はありません。本当に多くの方に支えてもらっています。本当に感謝しています。これからも、感謝の気持ちを忘れずに、もっとたくさん努力をして、先輩の様に後輩から憧れられるような人になりたいです。

「人の存在」

一組 木多 春輝(茨木市立平田中学校出身)

僕がこの一年間で一番成長したと思うのは、人の話を、目を見てしっかりと聞けるようになったことです。オリエンテーション合宿の日誌を見てみると、最初は話を聞いていなかったなと思いました。そして、それが授業でも出てしまい、クラスは二分化していると感じると担任と話合ったこともありまし

た。自分はそのときに変わらなければと考えるようになって、授業で人の話をしっかりと聞くということを意識しました。するとバラバラになっていたクラスもだんだん一つになっていきました。たくさんの人に迷惑をかけて、いろいろな人に助けられてクラスは一つになりました。自分が変われば周りも変わるということに気づけた一年でした。

最初は男子クラスなんていやだと思っていました。でも今になるとこのクラスですといたいと思うこともあります。そんな風に願っていてもそれが叶うことはありません。でも僕は人と出会うことを恐れません。なぜなら人は僕に変化と成長を与えてくれるから。

「チャレンジ」

一組 戸田 康太(茨木市立西中学校出身)

僕がこの一年間でできるようになったことは、責任ある仕事に対して積極的に参加できるようになったことです。例えば、僕は今年度はじめに代議委員になりました。この出来事は自分の中では大きなチャレンジでした。中学のころは、やってみたいけれど失敗したらどうしようと思っていました。しかし、中学三年のころSNSを通して自分の価値観が変わっていき、挑戦というの自分にとってチャレンジだとわかりました。実際に入ってみると予想していた通り失敗しました。だからこそ自分の弱点を気付かされました。弱点やできないことを克服するには時間がかかります。だから引き続きチャレンジしていくと思います。

僕の来年度の目標は、今年度の目標よりも多くのこと挑戦すること、英語を話せるようになることです。この目標を達成するためには多くの時間と努力を積み重ねることが大事だと考えています。そこで、これからは毎日の時間を大切にがんばりたいと思います。

「変わった一年」

J組 松尾 瞳優（箕面自由学園中学校出身）

私はこの一年間で考え方などを大きく変えることができました。中学生の頃の自分は強化クラブに入っていたこともあり、朝から晩まで部活をしていました。そのため心に余裕がなく、自分のことだけで余裕がなくなっていました。そのためか、些細なことでも気にして落ち込み、マイナスイ思考なのが自分の性格だと思っていました。しかしこの一年、私は部活をやっておらず、自分の好きなことをする時間が増えたこともあり、心に余裕ができました。そのため前より周りのことを考えて行動できるようになったのではないかと思います。また、マイナスイ思考も、自分次第で変えることができることになりました。今はちよつとしたことでも前向きな考え方に変わられるようになったため、中学三年生の自分より明るい性格になりました。この一年間で自分がこんなに変われると思っていませんでした。毎日友達と笑って過ごしている今の生活がとても楽しいです。

「この一年間でわたしは」

J組 柳原 汐里（大阪市立城陽中学校出身）

私は、この一年間でコミュニケーション能力が身についたと思います。私は人と話すのが苦手で、中学まではみんなの意見に合わせていました。しかし、大阪高校ではグループワークがどの授業でもあり、自分の意見を言わなければいけない機会が多くあります。私は最初、意見が出せなかったのですが、大阪高校に来る子は、自分の意見をはっきり言える子が多いです。その子がグループの中心となりグループをまとめてくれるので、とても話しやす

い環境ができます。そこでどんどん自分の意見が言えるようになりました。間違ったことを言ったらたまに笑ってくれる人もいますが、アドバイスをくれる子や話をつなげてくれる子もいます。社会に出ると「しぜん」などをしなくてはいけないときがあると思うので大阪高校で「コミュニケーション能力をつける」ことができよかったですと思います。残り二年間でもっと「コミュニケーション能力をつけて将来に役立てばいいな」と思います。

「1歩でも先へ」

J組 山城 嘉人（茨木市立三島中学校出身）

この一年間でたくさんのお話を学び、経験することができ、成長できたと感じています。大阪高校にきたからこそ、いろいろな事を学び、多くの課題を見つけ、どの様に直していくかを考えることができています。大阪高校の陸上競技長距離・駅伝部に所属しているのですが、この一年の学び・経験は顧問の先生方や仲間・ライバルが存在してくれ、ご指導をいただいたからだと思います。朝練習は、朝早く始まり、夏休み等の期間は合宿などで忙しく、あつという間の一年間でした。その忙しい中であっても思うことは「大阪高校でないと過ごすことのできなかつた1年間」だったということです。また、ただ走るのではなく、生活の中で使っている物や事に対しての感謝の気持ちや、その感謝の気持ちを行動に移す力・大切さや、社会に出た際に必要とされる力を指導してください。これらのことを行動に移し、身につけるには相当な時間が必要かもしれませんが、限られた時間の使い方を考えるようになりました。

「決まった年」

K組 五十住 友哉（大阪市立野田中学校出身）

私にとって、この一年は将来について色々なことが決まった年になった。まず一つ目は、勉強での目標が決まったことである。中学生のとき、勉強では底辺にいた私が入学して一回目のテストで、学年九位になったことで、自信を持つことができ、学年一位を目標にすることを決めた。

二つ目は、私が将来、何をするのかということである。今まで一度も自分の将来について考えてこなかった私が、高校一年生という義務教育を終えたことで危機感を覚え、自分の将来について真剣に考えるようになった。

まだ他にもあるが、中学を終え義務教育でなくなったこの年は、ひとつの節目であり、とても大事な時期だと私は考えている。この時期の自分の選択は、自分の人生に大きく影響されるだろう。だからこそこの時期を大事にして、これからの人生に「幸」の文字が続けるように、私は一つ一つのことを深く真剣に考えていこうと強く思った。

「この一年」

K組 川田 花恋（大阪市立緑中学校出身）

私はこの一年で勉強が好きになりました。きっかけは二つあります。

一つ目は、一学期のテストです。初めてのテストだったので、今までよりも熱心にテスト勉強をしました。そのおかげで、テストの総合点数が自分の予想点数よりも百点くらい上だったので、すごく嬉しかったし、がんばって勉強して良かったなと思いました。頑張った分だけ点数が上がる感覚は気持ちが良いと感じました。おかげで次の期末も、もう一回この気持ち良さを感

じたいなと思ったので、中学のときよりも勉強量がすごく増えました。

もう一つのきっかけは、看護師になる夢があることです。私は、中学生のときからその夢をもっていました。母親や看護師の先輩方や塾の先生に、高校では内申を上げることが大切と言われ、すごくやる気になりました。そのため、二年生・三年生になっても理系クラスで遅れをとらないようにこの気持ちを忘れず、熱心に勉強に取り組みたいと思っています。

「成長」

K組 益田 優作（大阪市立友測中学校出身）

僕はこの一年間で、人として成長することができました。学校生活の方では、テスト勉強を自らするということは今までなかったです。しかし、高校に入り、周りに負けたくないという思いで必死に勉強するようになりました。その成果が出て、一年間上位をキープすることができました。次に部活動では、毎日の練習での技術の向上はもちろん、メンタル面も鍛えられました。また一年間ケガなくできたことも良かったです。なにより、あいさつや身だしなみなどの社会に出たときに必要な礼儀が身についたことが自分にとって一番の成長だと思います。

これからの目標は部活動と勉強の両立です。学年が上がるにつれ、部活動は厳しく、勉強は難しくなると思うけれど、高一の一年間では、何事にも向上心をもって取り組む一年にしたいです。

「この一年間で」

「組 田中 瑠純（高槻市立第二中学校出身）

私は、高校生になって周りを見て行動できるよつになりました。中学生の時は相手が嫌がっている事に気付かなかったことがとても多かったけれど、今は相手の気持ちを考えることが出来ています。これ以外にも勉強面についてもよくなったと思います。中学生の時は勉強を全くせず、テスト一週間前になってもペンすら持たなかったことがよくありました。しかし、高校生になった今は、テスト前は勉強をするようになります。苦手な科目だった数学や理科は、今では得意な科目に変わりました。途中で投げ出しそうになっただけ諦めなかったことで変わることもあるということが分かりました。今の目標は、大学に行くことです。勉強をしっかりと行い、投げ出しそうになった時は友達と協力して諦めないように心がけ、助け合いながら行動していることと思います。

「大人に向けて」

「組 辻本 悠心（吹田市立山田東中学校出身）

私が大阪高校に入学して一年間で学んだことは、将来の大切さと高校は大人への一歩だということです。大阪高校は将来に役立ち、ためになることを教えてくれる所です。中学生ではわからない社会の事や人と人のコミュニケーションの取り方なども教えてくれました。それに大人になって役立つ事を教えてくれ、そのために何をすべきかなどをこれから指導してくれます。自分が大切だと思ったことは、検定をたくさん取得することです。検定を取得すれば将来、会社に入る時必要な書類に書けるのです。そうして会社にア

ピールが出来、合格率も上がるのです。だから大人になる為の力になってくれ、そして大人に向けての磨きをかけてくれる高校だと思いました。残りの二年も楽しんで、そして無駄なく過ごしたいと思っています。

「自分のやりたい事」

「組 松井 瑞恵（豊中市立第六中学校出身）

私は一度、自分のやりたい事が何か分からなくなりました。中学の時は、私は「こうなりたい。こういう人になりたい。」と何となく理想図が出来上がっていました。しかし、高校入学後しばらく経って、急に分からなくなりました。特に何か私の中で事件が起ったわけでもなく、成績が悪いわけではありませんでした。ただ、私は自信がなくなりました。これからの事、自分がやりたい事に対して不安を持ちました。私は、それを無くす為に考えた結果、中学校の頃から活動していた生徒会に入りました。それからというものの不安が無くなったわけではありませんが、少しでも私のやりたい事は何か掴めたような気がしました。何も動かないより少しでも動く。そういった事を学びました。生徒会は始めたばかりで、これから先辛い事があると思いますが、それでも私なりに頑張っていきたいと思いました。

「一年間でがんばったこと」

M組 石松 希（大阪市立淡路中学校出身）

私はこの一年間で勉強を前よりはするようになったと思います。中学生のころは、入試が近づいていても「専願だから合格するはず」と思って勉強をしていませんでした。私が大阪高校を専願で受けた理由は陸上部に入りたかったので、母も陸上部に入るはずと思って専願で受けさせてくれました。でも、陸上部の強さに圧倒され、自分ではついていけないと思って入部しませんでした。そんな私に母ががっかりしてしまうのがすごく嫌で、せめて勉強だけでもと思い、勉強をするようになりました。中間テストの合計点数から期末テストの合計点数が七十点上がったとき、母にほめられてうれしく思えたので、一年間勉強をがんばってよかったと思います。これからも勉強を続けていい大学に進み、母を喜ばして自分自身も勉強をがんばってよかったと思えるようにしたいです。

「高校生活」

M組 本村 昂羽（大阪市立新北野中学校出身）

私は大阪高校に入ってからこの一年間で色々な事にチャレンジしました。まず一つ目は、部活動です。私は中学校ではサッカー部に入っていました。しかし高校で新しいことに挑戦したいと思い、フットボール部に入学しました。最初はギターの弦を押さえるのがやっとなのでとても不安でした。でも今は先輩の指導や練習することに良い環境のおかげで弾けるようになりました。二つ目は、勉強面です。私自身勉強が得意な方ではないので高校の勉強についていけないのか不安だったけれど、先生方が分かりやすく教えてくれて入学する前より勉強が楽しくなりました。英語検定や漢字検定にも取り組むよ

うになり自分の成長を実感することができました。

このように新しいことにチャレンジ出来たのは大阪高校に入学したおかげだと思っています。

「未来へ向けて」

M組 藤原 翔平（豊中市立第十八中学校出身）

この一年間で私は多くのことを学びました。その例として、大阪高校に入ってからどのように変わったのかを書きたいと思います。

まず最初に中学校と大きく変わったところは「人脈」の多さです。やはり中学の時よりも比べものにならない人数が、この大阪高校にいるので、最初はとても心配でした。一人で大阪高校に入ってきたので、その時は「友達できる？」とか「勉強ついていける？」とかが頭の上をずっと回っていました。

しかし、風が一瞬で吹き止むくらいにオリエンテーション合宿のときにその不安はなくなりました。何故なら、人脈が良かったこと、それはつまり「ツキ」があったということだと思います。とにかく私が言いたいのは焦らずに、人とのコミュニケーションを増やしてその人自身の性格をしっかり捉えて、その人の良いところや趣味などを見つけて、話していけば人との関わり方が上手くなると思います！しかし、忘れてはいけない事は「今の間に失敗しろ」です。この言葉が持つ意味は「失敗をして成功につなげる」ということです。人間は失敗する生き物です。だからその「失敗」から何を学ぶのかがこれからの生きていくうえで大切なことだと私は思います。

今まで環境の変化や人との関わり方を書きましたが、後ひとつ忘れてはいけないものは、「学ぶ」ということです。「学ぶ」ということは、各科目の勉強もそうですが、机に向かうだけが勉強ではないと私は思います。まず自分の好きなことを見つけて、それを未来の仕事や、大学に活かせば、とても充実した人生になるはずです。

「この一年で私は」

N組 岩本 龍斗（大阪市立豊崎中学校出身）

私はこの一年間で、物事の捉え方が変わった気がします。たとえば小説を読むとき、以前はその本の内容を読んで楽しむだけでしたが、今は「作者がどうやってこの内容を考えたのか」など、考えの範囲が広まりました。

しかし、私は決める力が少し足りないと思いました。それはこの一年間であまり変えられませんでした。苦しい期間があった時も、なかなか自分で決断ができず、ずっと迷っていました。それに一回決めても、しばらくした後また考えてしまいます。そして、私がこの一年でもうひとつ思ったことは、主体性が足りないということです。自分からたくさん話すことをしなかったので、相手に自分の考えを伝えられないことも少なくありませんでした。だから私は、自分の思っていることを相手に伝えられるように、そして行事など自分から積極的に取り組むように主体性を身につけていこうと思います。

「テスト」

N組 門 響士（大阪市立今市中学校出身）

恐らく、中学の頃の僕の成績を知っていて、この大阪高校の偏差値を知る人であれば、僕がこの高校を選んだことを疑問に思う人も少なくないだろう。正直に言うと、自分も他ならぬその一人だった。なぜ過去形になっているかは、お察しのとおり、僕自身、得られたものがあるからだ。

入学して初めてのテスト。僕は三位だった。その次のテストは四位にさがっていた。悔しくはなかった。そんな僕に「学期の中間前の現代国語の時間、担任である佐々木先生は言った。「そんなじゃ一位にはなれませんよ。」そんな、とは僕の授業態度のことである。筋違いではあるが、僕はとても腹が

立ち、次は一位になると決め、勉強をした。遅くまである部活との両立に頭を抱えさせられることも多かったが、努力の末、僕は一位になった。とても嬉しかった。妥協を重ねていた日々は自分自身で向き合い、周りの人に助けをもらいながら律していくことが成長への大事な一歩だということがわかった。一年間色々なことがあったが、一番の収穫は間違いなくこれだと思う。

「この一年で私は」

N組 柳 康太（東大阪市立石切中学校出身）

大阪高校に入学して一年が経ちます。この一年で僕は人として大きく変わることができました。

現在、陸上競技部の長距離として活動させていただいているのですが、入学当時はまだまだ長距離に対して未熟だった僕は分からないことも多くあり、毎日が勉強でした。部活と勉強の両立は正直しんどいこともありますが、日が経つことに少しずつ成長していると実感できました。

顧問の先生方はいつも「勉強できる人が賢いわけではない、自ら行動できる人が賢いのだ」とおっしゃっています。中学校の頃の自分には考えもできなかったでしょう。初めて顧問の先生のお話を聞かせていただいた際にはとても心に響きました。いくら運動ができてても社会に出ると通用しない、自分から行動できる人が将来成功すると僕はいつもそう言い聞かせています。これが今の自分へと変わったのではないのでしょうか。

もうすぐ僕は先輩という立場になりますが、二年生になればだんだんと忙しい時期にもなります。そんななかでも僕は五つの心「素直、謙虚、感謝、反省、奉仕の心」を大切にしようと思っています。成長していきたく思います。努力なくして成功なし、失敗を恐れずどんどん挑戦していく二年生にしていきたいと思っています。

「この一年で私は」

○組 角井 星名（茨木市立南中学校出身）

大阪高校に入学してから私は、勉強に対する意識が変わりました。中学生の頃は授業の内容が分からないから寝たり、全く勉強をせずにテストを受けたりしていたのでとても点数が低かったです。しかし、高校生になるのを機に、授業を真面目に受け、テストの一週間前には朝早くに学校に行き勉強をするようになりました。そのおかげで授業も少しずつ理解できるようになりテストの点数も上がりました。これからもテストの点数を上げられるように継続していきたいです。○組はとても楽しく、みんな笑顔で、過ごしやすいクラスでした。球技大会も体育祭もみんなで団結して取り組みました。入学式の時には友達ができるか心配だったけど、オリエンテーション合宿で一緒に勉強をしたり、話しているうちに緊張もとけて、いつの間にか普通に話せるようになっていました。二年生になってクラスが変わるときに、最初は話せないかもしれないけど、オリエンテーション合宿の時みたいに話せるようになりたいです。

「この一年で私は」

○組 田邊 美稀（大阪市立野田中学校出身）

私がこの一年間で思うことは、大阪高校に入って良かったなということだと思います。特に、○組の人達にはとても感謝しています。大阪高校に入学した頃のオリエンテーション合宿は不安で不安で仕方なかったです。友達ができるのかな、仲がいい子はできるのかなとばかり考えていました。しかし、今ではそんなことを考えていたのもなつかしく感じます。私は、とても良い友

達に出会えました。私は、この一年間その友達といて毎日笑っていたし、笑っていなかった日なんてあるかな？と考えるべらい毎日楽しい日々をおくれました。私は、部活に入っており放課後はほとんど遊べないけど学校で毎日一緒にいられて本当にうれしいです。その友達には、本当に感謝しています。そして、球技大会で泣いたり、体育祭で大声出したり授業でたくさん笑ったりして楽しかった○組に出会えて良かったです。

「この一年間で私は・・・」

○組 岡村 果音（大阪市立井高野中学校出身）

私は昔からすごく控えめでコミュニケーション力が低い方でした。そのため、今まで積極的に取り組むことを目標にしていますが、なかなか行動に移すことができませんでした。しかし、大高に入り変わることが出来たと思います。一つ目は和太鼓部に入り、たくさん友達や先輩ができ、前の自分よりコミュニケーション力が身についたと思います。先輩と喋ることによって目上の人との関わり方や敬語の使い方も分かるようになりました。二つ目は人への見方も変わりました。昔の自分は嫌いな人がいたら嫌な所しか見えていなかったけれど、今では人の良い所を探すようになりました。もし苦手な人がいたとしても良い距離感を保つ事が出来ると思います。

逆にあまり変われなかった事はいつまでも前に出て発表などをする事が苦手なところだと思います。二年生は前に出て発表する事に慣れる事を目標にしたいと思います。

「この一年でわたしは・・・」

P組 片山 葵唯 (大阪市立野田中学校出身)

高校生になって、私は変わった。高校生活初日に行われたオリエンテーション合宿は、右も左も赤の他人で、早く終わることを心から願っていた。「いじめられるかもしれない」「一日中ビクビクしていた。でも・・・今の私はあの時と全く違う。私と仲良へしてくれる人がこんなにも沢山いる。ずっと劣等感を抱えて、「私なんていらない」「何の為に生きているんだろっ」と毎日考え、何かに追われている感覚を味わうことも、嫌われてしまう怖さも、今では薄まっている。大阪高校は、正直高校としてどうなんだという所もある。でも、他の高校と違って、生徒の成長を履き違えた苦しい校則も、自分のしたいことを壊そうとしてくる曲がった教育も、本当に少ない。もう今までの辛い我慢なんていらぬ。私が私であることを認めてくれる場所。それが大阪高校であると私は思う。高校を選び間違えたと思疚をこぼしていた入学当初の私自身に、今の私から手紙を送ってみようと思う。

拝啓 ちよっと前の私へ。

「この一年間で私は・・・」

P組 北川 桃子 (茨木市立西陵中学校出身)

私は、高校に入る前に目標を立てました。それは、「心の強い人になる」です。私は中学校時代たくさんの人に支えられて受験を乗り越えこの高校に入学しました。落ち込んでいた時、悲しい時、周りの人達は声をかけてくれ、時には何も言わず見守ってくれました。私はそこで高校生になったら今まで弱かった自分を少しでも変えられるように目標を立てました。

しかし、高校は全てが初めてのことで戸惑うことはかりでした。友達作りのなどの環境の変化、最初は本当に行きたくなかったです。何度か学校を休むこともありましたが、目標がわからなくなることもありましたが、その中でも目標を思い出し何度も葛藤を繰り返しました。

そして、一年前の自分より強くなった気がします。四月には、高校二年生になります。高校二年というのは三年間で一番たるんでしまう時期だと思えます。しかし、去年と同じように目標を立てて一年間頑張りたいです。

「この一年間でわたしは」

P組 三枝 優大 (大阪市立喜連中学校出身)

この一年間で私は、文武両道をしっかりとできたと思います。なぜなら、部活動の硬式野球では一年生の夏の大会から試合に出場し、良い結果を残せましたし、新チームが始まってからでも自分の役割をしっかりと理解をし、すべき事を自分なりに考えて行動出来たと思うからです。そして勉強面に関しては、苦手な英語を克服していき点数を上げ、数学では過去最高得点をこれて、他の教科でも平均点を超えてくるようになっていき、合計点数もだんだん上がっていききました。

文武両道を達成するには、何事にも楽しんで取り組むことが大切だと感じました。だから、来年以降も色々な壁にぶつかるとおもいますが、一つ一つ乗り越えていくために楽しむことを忘れずに頑張っていきたいです。努力を惜しまず、一生懸命に取り組んでいきたいです。

「一年間で得られるもの」

Q組 山添 陽太（茨木市立南中学校出身）

この一年間で私は「思考力」が向上したと感じます。探究コースでは、物事の見方、考え方、人とのコミュニケーションの方法などを学べる授業が多く、今まで適当に生きていた自分を変えてくれるきっかけになりました。思考力、ということも私は大きく分けて三つに分類できると思います。ひとつめは、物事の本質を見る力です。なぜ、どうして、何のため、等を常に考えることです。二つめは、人の心を理解しようという力です。他人と話しているとき、話を聞くとき、本を読むときなどに、今その人はどんな気持ちで、どんな目的があるのかを考える力です。三つめは自分を見つめ直す、客観的に自分を見るところです。振り返りや人に意見を聞く、自分は何をしようとしたのかを考える力が少しずつ付いてきました。この思考力は、一年前の自分にはなかった力です。一年間という期間は短いですが、今ないちからをどれだけ得られるか、だと思います。

「探究コースでの学び」

Q組 光齋 あかり（西宮市立塩瀬中学校出身）

私はこの大阪高等学校の探究コースに入り、人とのコミュニケーションの取り方や、人前でのプレゼンテーションの仕方について学びました。この学校に入る前は、人前で自分の意見を言うのが苦手で、いつも相手の意見に流されていました。しかし、この学校に入り、探究コースで学んでいくうちに、自分の意見を言葉にして相手に伝えることに慣れてい

き、人前でのプレゼンテーションでも堂々と話すことができるようになりました。自分の意見を否定されるのが怖くて、意見を言うことができなかった自分が、この探究コースに入って大きく変わりました。これからも日々成長できるように、この大阪高等学校、探究でたくさんのごことを学びたいと思います。

「入学して変わったこと」

Q組 中 晴輝（豊中市立第十一中学校出身）

僕が高校に入学して過してきた一年間で変化したことは、中学生の頃と比べて挑戦するようになったことです。中学生の頃は自分に自信がなく、失敗するのが嫌で、自分から行動して何かに挑戦することをほとんどしてきませんでした。しかし、この探究コースに入ってから、先生が色々なことを勧めてくれたり、周りのクラスメイトが行動しているのを見たりして自分も挑戦するようになりました。例えば、オープンスクールで誰かが前に立ってコース説明をすることになったとき、自分から手を挙げてやることにしました。最初は緊張していたけれど、やってみると自分が思っていたよりもうまくでき、先生方からも褒められて、「自分でもやればできるんだ。」と自信がつかれました。このように、挑戦するのが自分にとって良いことだとわかってからは色々なことに挑戦するようになりました。これからも挑戦することを大事にしていこうと思います。

あとがきにかえて

大阪高等学校 第一学年団

二〇一九年四月、期待や不安をにじませながら大阪高校の門を通ったあの日から、早くも一年が過ぎようとしています。この一年、第一学年団は皆さんの成長を願いながら様々な取り組みを企画し、全力でぶつかってきました。大変なことや面倒なこともあったかと思いますが、その努力や経験が少しでも皆さんの成長に繋がっていただければ幸いです。

私たちが掲げたキーワードは『対話』。

オンラインで学習が出来る世の中で、学校に来て学ぶのはなぜか。それは、社会は人によって作られ、その中でそれぞれの人生ドラマが作られていきます。うまくいかないこともあるでしょう。しかし、『成長』をゴールに設定すれば、失敗も成功も等しく『材料』となります。対話を通じて学ぶことは、学校だからこそ出来ることです。自分の物差しを伸ばしていく中で、『対話』にはどんな力もあります。

さて、一年生の皆さんはこの一年間『対話』をして、クラスメイトや先生と学び、学校生活を充実させる事ができたでしょうか。『この一年間で私は…』とは、一年生の真摯な声が載せられています。一部の生徒の声ではありませんが、読まれた方々に、大阪

高校の生徒が大いに『変化』も『成長』している様を読み取っていただけたと思います。また、この一年間、オリエンテーション学習合宿に始まり、球技大会や体育祭、夏期講座に夏期合宿、文化祭に自由研究、ポスターセッションやプレゼンテーション、検定試験に実力テスト、フィールドワークなど、改めて振り返ってみると、本当に様々なことに取り組んできました。

まだ一年が経過したにすぎませんが、私たち第一学年団は、これまで見せてくれた生徒の『対話』する姿を頼もしく感じています。残りわずか二年ではありますが、共に刺激し合い、学び合いながら、これからも全力で生徒の成長を支援していきたいと考えています。

第一学年主任 平松 敬



「この1年間で私は……」
～第1学年～



発行日 2020年3月31日 発行

発行 大阪学園大阪高等学校
第1学年

発行所 大阪市東淀川区相川2-18-51
TEL. 06-6340-3031

印刷 株式会社ティ・プラス